

六ヶ所村津波・高潮ハザードマップ 鷹架地区

平成 25 年 3 月 作成

日頃からの備え

家族で「もしものとき」について話し合ひましょう。

- ◆地震や津波について正しい知識を身につけましょう。
- ◆地域の地形をよく知り、家族の避難所や退避ルートを確認しておきましょう。
- ◆家族間の連絡方法や連絡先を決めておきましょう。

家族の避難所

緊急時の連絡先		

津波警報・注意報について

気象庁は、地震発生後、津波による災害が発生が予想される場合、地震が発生してから約3分を目標に大津波警報や津波警報または津波注意報を発表します。その内容は、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどです。

気象庁のホームページ…<http://www.jma.go.jp/jp/tsunami/>

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

予想される津波の高さ 数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現	とるべき行動	想定される被害
大津波警報 10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。 10mを超える津波により木造家屋が流失
5m (5m<高さ≤10m)			
津波警報 3m (1m<高さ≤3m)	高い	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。 豊橋町提供 (2003年)
津波注意報 1m (20cm<高さ≤1m)			

- 震源が陸地に近いと津波警報が津波の到来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波警報(若干の海面変動)」を発表します。

リーフレット 気象庁「津波警報が変わります」の一部を転載。

津波とは

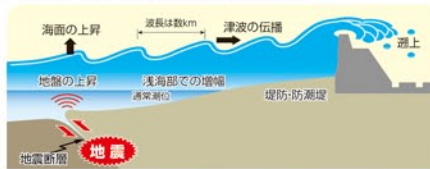
津波の「津」とは、船着場や渡し場を示す港を意味し、「波」とは、津(港)に押し寄せる異常に大きな波のことをいいます。

- 海底の地震に伴う海底地盤の隆起、沈降
- 海底における地滑り、地崩れ
- 海底火山の噴火

などにより、その周辺の海水が上下に変動することによって引き起こされる波長の長い波です。

発生した海水面の動き(上下動)が特に大規模なものであれば、水面が広範囲に盛り上がり、巨大な水の塊となって、沿岸に達すると破壊力の大きな大津波となります。

また、津波は何回も来襲しますので、浸水する深さは第1波よりも第2波以降の波が最大となる場合があります。



津波の特徴

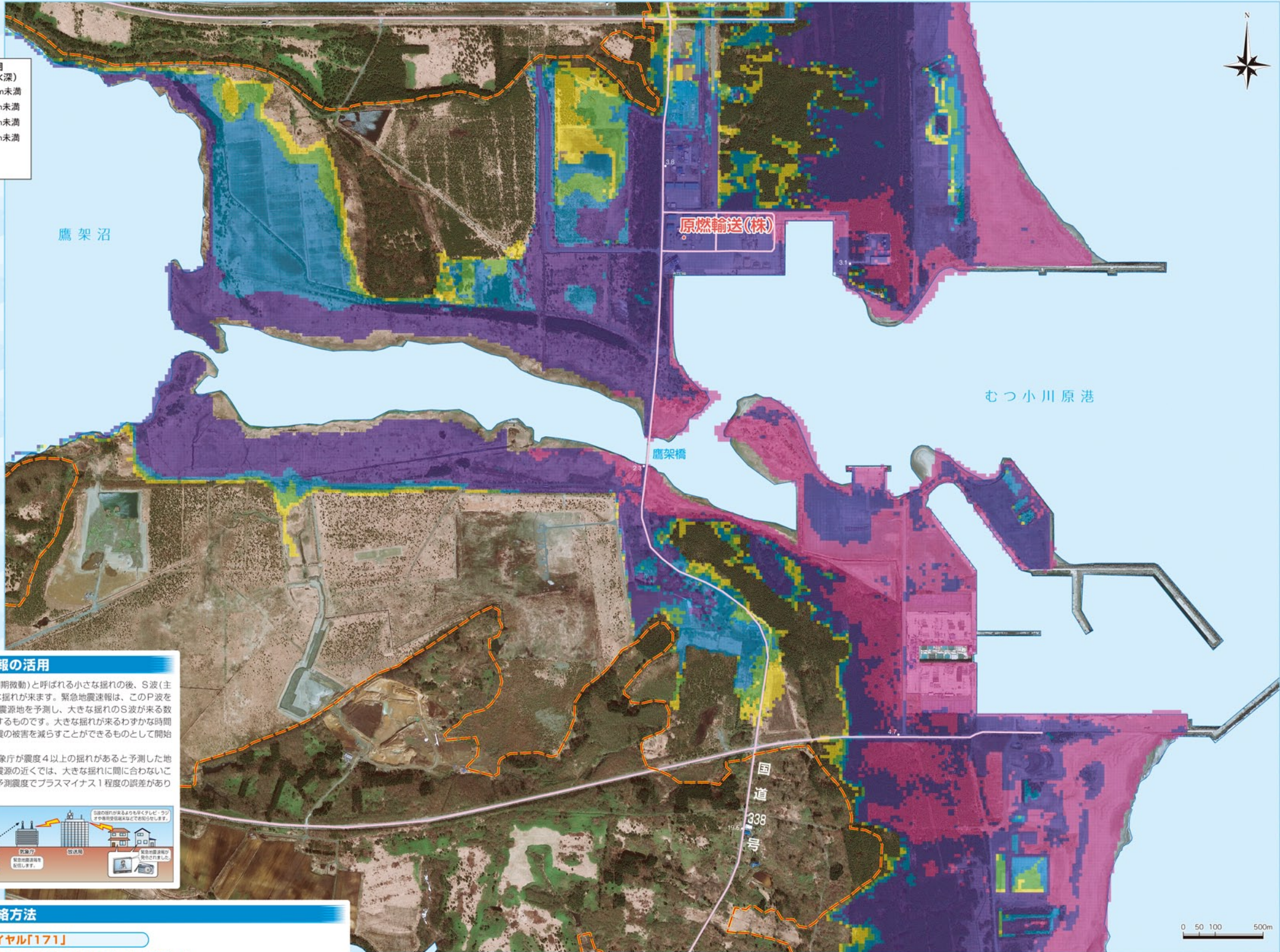
- 1 津波のスピードは速い!**
海を伝わる津波の速さは、沖合でジェット機並み、海岸付近でも新幹線並みです。
- 2 繰り返し襲ってくる!**
津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。また第1波が最大とは限りません。
- 3 引き波で始まるとは限らない!**
いきなり大きな波が襲ってくることもあります。
- 4 津波は海から来る洪水!**
特に引き波は流れが速く、50cmの津波で海に引き込まれ行方不明になったケースがあります。
- 5 高さは想像を超える!**
津波は長い時間に及び非常に長い波長の波で、海岸の地形によっては数倍の高さに及びることもあります。
- 6 凄まじい破壊力!**
津波は海底から海面までの全ての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 7 河川の遡上(逆流)に注意!**
津波は河口から河川に侵入し、何kmも上流に遡上(逆流)することがあります。遡上した津波が、河川堤防を越えて沿岸地域に大きな被害をもたらすことがあります。

津波に対する心得

- 1 強い揺れや、長い時間ゆっくりとした揺れを感じたら、津波に注意!**
警報・注意報を待たずに直ちに避難しましょう。
- 2 海岸を離れ高い場所へ!**
「より速く」ではなく「より高い」場所へ避難しましょう。
- 3 警報・注意報がたらずに避難!**
地震を感じなくても油断は禁物。避難を開始しましょう。
- 4 情報収集は安全な場所へ移動してから!**
情報を持っていると逃げ遅れる場合があります。情報収集は安全な場所です。
- 5 海岸や河川には近づかない!**
警報・注意報が解除されるまで、海辺や川岸に近づかないのはやめましょう。
- 6 自動車での避難は控える!**
自動車での避難は危険をとまぬとともに、緊急車両の活動に障害となります。

凡例

- 避難路
- 津波浸水予測範囲(想定津波の最大浸水深)
 - 5.0m以上 10.0m未満
 - 2.0m以上 5.0m未満
 - 1.0m以上 2.0m未満
 - 0.3m以上 1.0m未満
 - 0.3m未満
- 要避難区域



緊急地震速報の活用

地震の際は、P波(初期微動)と呼ばれる小さな揺れの後、S波(主要動)と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえて地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。大きな揺れが来るわずかな時間を活かし、少しでも地震の被害を減らすことができるものとして開始されました。

緊急地震速報は、気象庁が震度4以上の揺れがあると予測した地域に発表されますが、震源の近くでは、大きな揺れに間に合わないことがあります。また、予測震度がプラスマイナス1程度の誤差があります。



災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤル「171」

被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
171 をダイヤル ガイダンスが流れます 録音の場合 1 ガイダンスが流れます 録音終了音が流れます	171 をダイヤル ガイダンスが流れます 再生の場合 2 ガイダンスが流れます 再生終了音が流れます

※被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

- 「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
- 録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
- 提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

詳しくはこちら <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

非常用持ち出し品(例)

災害に備えて食糧と懐中電灯や携帯ラジオ・予備の電池なども準備しておきましょう。避難時にはすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

家庭での備蓄(3日分)	食料: 簡単に食べられるインスタント食品や缶詰、レトルト食品などの保存食を3日分
	飲料水: 1人1日3リットル×3日分
	トイレバック: 凝固剤と袋がセットになった携帯トイレ (1人5個×3日分)

災害時要援護者を守る

高齢者、傷病者、妊産婦、乳幼児、障がい者など、災害時に支援が必要な人がたくさんいます。自分自身の力で避難できない人、自分が避難している状況を理解できない人など「災害時要援護者」(以下「要援護者」という。)の被害が予想されます。そこで、地域が一体となって要援護者を災害から守ることが重要です。

要援護者の立場になって防災環境を点検

- 避難経路は車椅子で通れるか、放置自転車などの障害物はないか。
- 聴覚、視覚障がい者への警報や避難勧告の伝達手段はあるか。

避難する場合はしっかり誘導をする

- 乳幼児や高齢者の方には、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援護します。
- 要援護者には地域で具体的な救援体制を定めておくことが重要であり、一人に対して複数の住民による援護が必要です。
- 日頃から地域における要援護者の把握に努め、日常的にコミュニケーションを図っておくことが重要です。

心のケアを忘れない

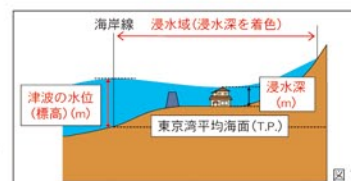
- 災害時の混乱や被害が大きいくほど、誰もが疲労とした気持ちになりがちです。要援護者には一層大きな影響を与えます。そんな非常時にこそ要援護者への温かい思いやりや真心のこもった援護が必要です。

復旧活動にも参加してもらおう

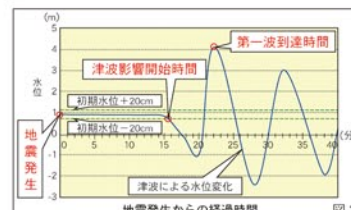
- 高齢者の方や子どもたちにも被災後の復旧活動に参加してもらいましょう。何もしないことがストレスや体調を崩す原因になります。

津波浸水予測図

- 「津波ハザードマップ」は、最大クラスの津波が発生条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を示したものです。
- 青森県が想定した最大クラスの津波は、「H24青森県太平洋沖地震津波(Mw=9.0)」になります。この津波の震源域は、「三陸沖北部の地震」と「明治三陸タイプ地震」を網羅する領域を想定したものです。
- 津波の水位は、東京湾平均海面(T.P.)を基準面としており、六ヶ所村の海岸線では最大で約12mと予測されています。
- このマップに表示している「津波の浸水深」は、陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの海面から水面までの高さを表示しています。
- このマップに表示している「要避難区域」は、津波浸水想定区域に予測の不確実性を考慮した浸水の恐れのある地域(バッファゾーン)を合わせた範囲を表示しています。
- このマップを利用するにあたり、以下の点に注意してください。
 - ① これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - ② 浸水域や浸水深等は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場合もあります。また、地形や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深が大きくなった場合があります。
 - ③ 津波の遡上等により、河川や湖沼において水位が変化することがあります。
 - ④ 青森県が想定した条件と異なる場合には、ここで示した時間より早く津波が来たり、遡上高が高かったり、浸水深が異なったりする可能性があります。



●浸水域、浸水深、津波の水位(図1)
津波の水位: 海岸線における津波の最大高さ(標高)
浸水域: 海岸線から陸地に津波が遡上した外縁までの範囲
浸水深: 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの海面から水面までの高さ



●津波影響開始時間(図2)
津波影響開始時間: 海岸を伝播してきた津波により、代表地点において初期水位から±20cm(海辺に於ける人々の目の高さ)の影響が出る恐れのある水位変化)の変化が生じるまでの時間
●第一波到達時間(図2)
第一波到達時間: 代表地点において第一波の最大到達高さが生じるまでの時間

©GeoEye, a DigitalGlobe company